

記念講演 II

航空会社の社会的責任

植 木 義 晴

日本航空株式会社
代表取締役会長

目 次

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. はじめに | 4. 台風の話 |
| 2. JALの環境問題への取り組み | 5. 終わりに |
| 3. CAP (Captain) =CEO? | |

1. はじめに

私の父は剣戟俳優の片岡千恵蔵で、子役として親の七光で映画に出たが、映画は出るものではなく、見るものだと思って役者になるのをやめ、高校の時、パイロットを一生の仕事として決めた。最高の職業を選んだと今でも思っている。1971年、航空大学校を受験したが身体検査で不合格になり、慶應義塾大学に入学。翌年、再び航空大学校を受験して合格、75年に卒業し、パイロットとして日本航空（以下、JAL）に入社した。

DC10、ボーイング747-400、ボンバルディアのパイロットを35年間やり、この間、94年に機長に昇格した。2010年1月に日本航空が経営破綻。その時、役員のおfferがあった。パイロットを辞めるなどとてもないと思ったが、破綻したときに自分だけ逃げ出してよいのかと思い直し、いばらの道を選んで役員となり、10年12月に専務執行役員路線統括本部長になった。本社管理部門の四つの本部を束ねる立場だが、この人事が出たとき社内は「植木って誰？」という反応だ



った。12年2月、59歳の時に社長になり、同年9月、IPOで再上場を果たした。私のIR活動の最初はIPOのロードショーで、証券会社の人からは、「社員で会社をつぶし、役員になって再建、社長で再上場、こんなに変わった人は、他にはいない」とからかわれた。18年4月からは会長を務めている。

私の人生を一言でいうと、役者の息子に生まれ、好きなパイロットを35年やって、役員として再建にかかわり、役員になってからわずか2年で日本航空で初のパイロット出身社長になったという